

[記入方法] 該当するチェック項目の「・」に○マークを記入する。

(検査員)

審査項目	細 別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	I 施工管理	<p>施工管理が優れている 施工管理がやや優れている 他の事項に該当しない場合 施工管理がやや不備である</p> <p>○であれば、□に「レ」点を記入する。 評価方法：チェック着目リストの2/3 (0.666・・) 以上が該当する場合に、評価項目を○とする。</p> <p>[□：評価対象項目]</p> <p><input type="checkbox"/> 1.建設工事請負基準約款第19条第1項(1)から(5)に基づく設計図書の照査を確認できる。 ・1) 土木工事標準仕様書（その1）第1編共通編第1章総則に記された設計図書の照査等が実施されている。また、設計図書の照査等の結果をその不都合に関わらず、書面で監督員に提出し確認を求めている。（文章整理必要） ・2) 土木工事標準仕様書（その1）第1編共通編第1章総則に記された工事測量が実施されている。また、設計図書の結果をその不都合に関わらず、書面で監督員に提出し確認を求めている。（文章で整理されている。） ・3) ICT活用の照査が実施され、書面で監督員に提出し確認を求めている。（この項目が×の場合は、他項目の評価に関わらず本評価対象項目が×となる。ICT活用試行対象工事以外は本項目を削除する。）</p> <p><input type="checkbox"/> 2.施工計画書と現場施工方法が一致していることが確認できる。 ・1) 施工計画書に所定の項目が記載され、契約後概ね1ヶ月以内に提出されている。または1ヶ月以内に提出しない（できない）理由を書面にて監督員と協議（あるいは報告）しその後現地着手前にすみやかに提出している。 ・2) 設計図書の条件明示を反映した施工計画書になっている。 ・3) 現場状況（地形、地質、周辺環境、交通量等）を反映した具体的な施工計画書になっている。 ・4) 安全対策が具体的・的確に記載され、実施されている。 ・5) 施工計画書に変更が生じた場合、当該工事の着手前に変更計画書が監督員に提出されている。 ・6) 指定（排出ガス対策等）機械があるときは、使用機械が確認できるものが整理されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 3.現場代理人、作業主任者等の作業分担と責任の範囲が書面で確認できる。 ・1) K Y日誌で現場代理人の常駐状況（兼任は常駐免除）が確認できるとともに、朝礼時において作業体制を的確に把握できる。 ・2) 施工計画書の現場組織表で、現場責任者が明記されている。 ・3) 施工計画書の安全管理組織表で、下請けも含め安全衛生責任者、作業主任者等が明記されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 4下請けに関する手続き等が適切に行われ、施工されていることが確認できる。 ・1) 施工体制台帳及び施工体系図（締結した下請契約の全てを記載）が作成され、工事現場に備えるとともに、監督員に提出されている。 ・2) 施工体制台帳の記入が要領に基づき、適正に記入されており、添付が必要な書類も含め提出されている。（下請契約の確認できる資料及び工事担当技術者(監理、主任、専門等)の資格並びに雇用の確認ができる資料等) ・3) 施工体系図は、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲示されている。 ・4) 下請負人が再下請を行う場合に再下請通知書を元請負人に提出する旨の掲示を行っている。 ・5) 施工体制台帳及び施工体系図に変更が生じた場合、その都度、監督員に提出されている。 ・6) 下請に対する引き取り（完成）検査が実施されている。 ・7) 下請に対する当初契約・変更契約が適切になされていることが確認できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 5.立会確認の手続きが事前になされていることが確認できる。 ・1) 段階確認、臨時検査が監督要綱、及び監督技術基準により、事前に段階確認願（種別、細別、施工予定時期等）が書面で監督員に提出されている。 ・2) 段階確認が適切に実施され、工程表と整合する。 ・3) 臨時検査が適切に実施され、工程表と整合する。 ・4) 立会確認が適切に実施されたことが書面で確認できる。</p>				<p>施工管理が不備である</p> <p>・ 設計図書と適合しない箇所があり、文書により修繕指示を行った。 ・ 契約図書に基づき施工上の義務につき、検査職員から文書により指示を行った。</p> <p>上記1項目該当事項があれば… …… d</p>

調査項目	細 別	a	b	c	d	e
		<p><input type="checkbox"/> 6.品質確保のための対策など施工に関する独自の工夫がみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 材料（質）のチェック、材料の保管、事前の対応、品質を保つための現場条件、品質を保つための対策の徹底、事後の対応、出来形に評価される品質の各々の時点における工夫が書面で確認できる。（「別紙6-1、6-2工事特性・創意工夫・社会性に関する実施状況」の提出。が必要。新潟県コンクリート品質確保ガイドライン（案）に基づく取組を達成したもの、ガイドライン（案）適用範囲外構造物でも加点対象構造物で達成条件を満たしているもの（令和3年6月23日技第1021号）。または加点対象構造物で達成条件(4)の3帳票の提出があったものも可とする。 <p><input type="checkbox"/> 7.工事の関係書類を不足なく簡潔に整理していることが確認できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) コリンズ登録が適正に行われている。 ・2) 工事記録が目的別にインデックス等で分かりやすく整理され、その整備資料全体がわかるように総括表でまとまっている。（提示資料は現場で使用したものをそのまま利用することから対象外） ・3) 工事書類簡素化の趣旨に則り、必要とされる書類が簡潔にまとめられている。（提示書類と提出書類がきちんと区別整理され、工事書類作成マニュアル記載資料以外の提出がない） ・4) 法的な手続き等必要なものに提出の漏れがない。（休日、祝日作業、道路使用、港湾区域の使用、労働基準監督署、特定建設作業実施届（騒音・振動）等が適正に実施されているか確認する。） ・5) キャリブレーションの必要な機器は、その成績結果表が添付されている。 ・6) 計算式等で算出根拠を説明するものがある場合、図表等を利用しわかりやすく整理されている。（例、薬注の注入量、該当がない場合は、項目削除） ・7) 説明のスムーズさから資料の整理、把握の良さがうかがえる。 <p><input type="checkbox"/> 8.工事記録写真等の整理に工夫がみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 工事写真撮影時、黒板等を利用して写真撮影箇所等、的確に分かり易く表示されている。 ・2) 写真帳の撮影箇所し略図等が添付され、該当位置・部分及び状況が把握しやすく見やすく整理されている。 ・3) 写真帳の分類の仕分けにインデックス等を利用し、見やすく工夫されている。 ・4) 俯瞰(ふかん)的な把握と共に、細部についても的確に把握できるように工夫されている。 ・5) 資料整理が、縦横になっていないで、施工順番に沿って整理がなされ、理解しやすくなっている。 <p><input type="checkbox"/> 9.建設廃棄物及びリサイクルへの取り組みが適切になされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) マニフストが整理され、所要の数量と整合する。 ・2) 施工計画書に再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画書が当初から添付されている。 ・3) 再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画書（実施書）が添付されており、数量が確認できる。 ・4) 建設副産物の最終処分地又は中間処理地が当初から計画されている。 ・5) 産業廃棄物の処分について、委託が収集運搬業許可及び処分業許可を受けた会社と契約されている。 ・6) 速やかに「再資源化等の完了報告書」が提出されている。 <p><input type="checkbox"/> 10.建退共の証紙が適切に配布され管理されている。（中小企業退職金共済制度加入者は、これに読み替える。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 建退共制度等に加入している。 ・2) 建設業退職者共済証紙購入状況報告書を工事完成時に提出している。 ・3) 建設業退職金共済制度適用事業主工事現場であることが表示されている。 				

審査項目	細 別	a	b	c	d	e
		<p><input type="checkbox"/> 1 1.社内の管理基準等が作成され管理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 管理基準がない工種について、独自の管理基準を設定し管理していることが確認できる。 ・2) 社内管理基準（目標）を設定するとともに、その運用方法（目標をオーバーした場合の検討体制や検討プロセス等の具体的な対処方法など）を定められ、管理されている。 ・3) その管理基準により社内検査（書類検査）が完了していることが書面で確認できる。 ・4) その管理基準により社内検査（現場検査）が完了していることが書面で確認できる。 <p><input type="checkbox"/> 1 2.工事材料の品質を確保していることが確認できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 設計図書に規定する工事材料の確認を段階確認で実施している。 ・2) 工事材料の品質保証等（ミルシート、鉄筋試験、コンクリート試験練り、A S R（アルカリ骨材反応）、塩分濃度等）が適切に整理されている。 ・3) JISマーク表示品については、JISマーク表示状態の確認ができる。 ・4) 工事材料の品質に影響が無いよう保管している。 ・5) 指定材料について材料確認願いが事前に提出されている。 <p style="text-align: center;">*チェック着目リスト該当率 = () 評価数 / () 評価対象数 = ()</p> <p><input type="checkbox"/> 1 3.品質証明体制が確立され、有効に機能している。（3億円以上の工事）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 品質証明員届が提出されている。 ・2) 品質証明員の資格は、一級土木施工管理技士又は技術士である。 ・3) 品質証明員の現場経験が10年以上である。 ・4) 適切な時期に現場の施工実態の確認を実施している。 ・5) 検査前に工事関係書類等の事前確認を実施している。 ・6) 品質証明書の書式が指定されたもので、証明者の押印及び受注者の社印がある。 <p style="text-align: center;">*チェック着目リスト該当率 = () 評価数 / () 評価対象数 = ()</p> <p><input type="checkbox"/> 1 4.その他 ()</p> <p>評価方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。・ ○○○</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○・ 評価できないもの ×</p> <p>④ 評価値（%） = 評価数 / 対象評価項目数 = ○・ / (○・ + ×)</p> <p style="text-align: center;">評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～80%未満…………… c</p> <p>評価値が60%未満…………… d</p> <p style="text-align: center;">※評価対象項目数が2項目以下の場合は、c評価とする。</p>				

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査職員)

考査項目	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」4項目が以上該当する。	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」3項目以上が該当する。	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」3項目以上が該当する。	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」2項目以上が該当する。	出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a～bに該当しない。	<p>・ 出来形が、測定項目、測定基準及び規格値を満足せず、規格値を超えるものがあり、ばらつきが大きい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 測量機器の検定証明書は提出不要であるが、認定期間切れの測量機器を使用した工事等、著しく出来形管理に問題があると認められる工事は「d」評価とする </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 評価方法：チェック着目リストの2/3 (0.666・・・) 以上が該当する場合に、評価項目を○とする。 </div> <p style="text-align: center;">○であれば、□に「レ」点を記入する。</p> <p>[□：評価対象項目]</p> <p><input type="checkbox"/> 1.出来形管理図及び出来形管理表に創意工夫がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 測定表に出来形寸法を測定した箇所略図等が掲載されている。 ・2) 管理表による傾向、課題等が一目で判断できる。 *チェック着目リスト該当率 = () 評価数 / () 評価対象数 = () <p><input type="checkbox"/> 2.出来形測定において不可視部分が写真で的確に判断できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 完成写真等に、不可視部分の参考写真が添付されている。 ・2) 不可視部分の出来形寸法が確認できる写真が撮影されている。(監督員等が臨場した箇所を除く) <p>(竣工写真では工事内容が分かりにくい場合、不可視部分の参考写真が添付されている。例：海岸(潜堤)工事。該当がない場合は削除)</p> *チェック着目リスト該当率 = () 評価数 / () 評価対象数 = () <p><input type="checkbox"/> 3.社内の管理基準等が作成され管理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 管理基準のない工種について、独自の管理基準を設定し管理していることが確認できる。 ・2) 社内管理基準(目標)を設定するとともに、その運用方法(目標をオーバーした場合の検討体制や検討プロセス等の具体的な対処方法など)を定め、管理されている。 ・3) その基準により社内検査(書類検査)が完了していることが書面で確認できる。 ・4) その基準により社内検査(現場検査)が完了していることが書面で確認できる。 *チェック着目リスト該当率 = () 評価数 / () 評価対象数 = () <p><input type="checkbox"/> 4.写真撮影要領の撮影項目、時期、頻度を満足している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 写真管理基準がない工種は、社内管理の撮影工種、項目、頻度、箇所などについて、当該工事に即して施工計画書に具体的記述が補足されている。 ・2) 写真管理基準の撮影頻度(時期)に基づき、撮影していることが確認できる。 ・3) 工事写真帳は写真管理基準に基づき作成されている。 ・4) 起終点の表示が写真上で明示され、着手前と完成時が比較できる。 *チェック着目リスト該当率 = () 評価数 / () 評価対象数 = () <p><input type="checkbox"/> 5.その他 ()</p> <p>① 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状寸法である。</p> <p>② 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づく形状寸法を確保する管理体系である。</p> <p>③ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。</p>						<p>・ 監督員が文書で改善指示を行った</p> <p>上記項目に該当があれば …… d</p>	<p>・ 検査職員が修補(手直し)指示を行った。</p> <p>上記項目に該当があれば …… e</p>

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	コンクリー ト構造物工 事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 【無筋】 ・1) 設計図書に基づくコンクリートの配合試験又は試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） ・2) コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度、スランプ及び空気量等が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） ・3) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレーターによる締固及び養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・4) 型枠及び支保工の組立が適正で、コンクリート打設後の取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・5) コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 ・6) コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 ・7) コンクリートの現場養生用の供試体が、当該現場のものであることが確認できる。 ・8) 施工の打ち継ぎ目では、コンクリート打込み前の清掃等が適切に行われている。 ・9) 型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面になく、丁寧な仕上がりが確認できる。 ・10) 高炉セメント使用の場合は、初期強度の管理に細心の配慮がうかがえる。 ・11) 打ち継ぎ目にモルタル施工が実施されていることが確認できる。 ・12) 目地に挟む目地材は、露出の表面で均一に出るように施工されている。 ・13) 目地材、止水板等はよじれなく直線的に仕上がっている。 ・14) 機器及び部品等で性能検査をするものは、製造者又は公的機関の証明書が整備されている。 ・15) コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたり、アルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 ・16) コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成20年3月14日付技第1037号） ・17) 非破壊試験による配筋状態及びかぶり測定を行っている。（平成23年3月14日付技第1025号） ・18) ひび割れ発生状況調査を実施している（土木コンクリート構造物の品質確保における品質確認調査方法、適用範囲1） ・19) ひび割れ有無の調査を実施し報告している（土木コンクリート構造物の品質確保における品質確認調査方法、適用範囲2） ・20) 有害なクラックが無い。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
II 品 質							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	コンクリー ト二次製品 構造物工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 ・1) 材料の品質規定証明書が整備されている。 ・2) JIS規格外品について、仕様書の規定する規格や品質を満足している。 ・3) 基礎地盤の整形、清掃及び湧水処理等が適切に実施されていることが確認できる。 ・4) 二次製品の保管、吊り込み、据え付け等に十分注意を払っていることが確認できる。 ・5) 土留め、ウェルポイント等の仮設が設計図書に基づき、適切に施工及び管理されていることが確認できる。 ・6) 二次製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷のないもので施工されている。 ・7) 施工基面は平滑で所定の強度が確保されている。(据え付け後に不等沈下で波打っていないこと) ・8) JIS製品について、JISマーク表示が写真で確認できる。 【擁壁類（補強土壁擁壁は除く）】 ・1) 胴込コンクリート及び裏込材の充填が十分で空隙が生じていない。 ・2) 基礎コンクリート及び天端等の調整コンクリートにクラック等の欠陥がない。 ・3) 材料の連結、又はかみ合わせが適切である。 ・4) 端部における地山とのすりつけが適切である。 ・5) 法勾配及び裏込め材の厚さの確保のため細心の注意をはらっている。 ・6) 設置後の製品に有害なクラックや損傷が無い。 【用排水施設】 ・1) 位置、方向、高さ及び勾配等について、前後の施設又は地形になじみよく施工されている。 ・2) 不等沈下防止に配慮して、基礎地盤の締め固めが特に入念に行われている。 ・3) 呑口、吐口及び集水桝等の取り付けコンクリートに、クラック等の欠陥がない。 ・4) 施設の流末は浸食、滞留等が生じないよう処理されている。 ・5) 不等沈下の発生がなく、基礎コンクリートの亀裂や縦目地からの漏水も見られない。 ・6) 縦目地の目地モルタルが適切に施工されている。 ・7) 製品周辺の盛土、埋戻土の施工にあたり、巻出し及び転圧が適切に施工されている。 ・8) 製品の縦目地には隙間やズレがなく、適切に施工されている。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		II 品 質	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。				
							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	土工事（切 土、盛土、 築堤等工 事）	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。						・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		<p>[評価対象項目]</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 雨水による崩壊が起きないように、排水対策を実施している。 ・ 2) 筋芝又は種子吹付等を適切に行っている。 ・ 3) 法面に有害なクラックや損傷がない。 ・ 4) 建設発生土が適切に管理されている。 ・ 5) 施工基面が平滑で、所定の強度が得られるように仕上げられている。 ・ 6) 建設発生土の再利用が積極的に図られ、現場での放置がなく、時間管理の上で適切に管理されている。 ・ 7) 伐開除根作業が設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。 <p>【切土、掘削】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 置き換えのための掘削を行うにあたり、掘削面以下を乱さないように、かつ不陸が生じないように施工している。 ・ 2) 余堀などによる地盤の強度低下を招かないよう施工している。 ・ 3) 切取法面において落石等の危険がないようにゆるんだ転石、岩塊等が除去されている。 <p>【盛土、築堤等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 品質管理の基準、そのための施工方法が明確になっている。 ・ 2) 良好な施工により盛土材の品質が設計図書に基づくものになっている。 ・ 3) 段切り等が施工前に適切に行われている。 ・ 4) 構造物周辺の締め固め等の処理を適正に行っている。 ・ 5) 締め固めを適切な条件の基で施工している。（巻き出し厚が均一で、均等な転圧が行なわれている） ・ 6) 締め固め試験により管理され適正な品質とする。 ・ 7) C B R 試験等を行っている。 ・ 8) 施工後の沈下量の測定が適正に実施されている。 ・ 9) 土羽工の土質が適正である。 						・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。
II 品 質								上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(検査員)

審査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	土工事（切土、盛土、築堤等工事）	<p>【補強土工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 基礎が沈下しないように十分な強度があるかが確認されて作業がされている。 ・2) 盛土仕上がりの状態に変形がなく、はらみのない状態で完成している。 ・3) 補強材の施工にずれ、歪み、はらみ、損傷がないことが確認できる。 ・4) 盛土の締固を適切な条件（人力機械別、巻出し厚、敷き均し、転圧作業等）で施工されている。 ・5) プレキャスト製品及び材料等の品質が、工場管理資料により適正であることが確認できる。 ・6) 現場条件に応じた排水対策が施工時を含め適切に講じられている。 ・7) 盛土の締固め管理（密度等）が適切に実施されていることが確認できる。 ・8) 構造物との取り合いがよく、排水処理が適切に実施されている。 						
II 品 質		<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値(%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数</p> <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満…………… b'</p> <p>評価値が60%未満…………… c</p>						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	護岸・根 固・水制工 事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。	
		[評価対象項目] 【共通】 ・1) 施工基面が平滑に仕上がり、所定の強度が確保されている。（出来上がりが波打っていない） ・2) 二次製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が製品を確認し受け取り、損傷のないもので施工されている。 ・3) 二次製品規格の現場チェックがなされている（土木部汎用二次製品は除く） ・4) 基礎工において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。 ・5) 施工にあたって、床掘箇所湧水及び滞水等を、排除して施工していることが確認できる。 ・6) ひび割れ有無の調査を実施し報告している（土木コンクリート構造物の品質確保における品質確認調査方法、適用範囲2） ・7) 新潟県コンクリート品質確保ガイドライン（案）に基づく取組を達成した（加対象構造物以外は項目削除） 【護岸】 ・1) 裏込材、胴込めコンクリートが充てん又は締め固めが充分で、空隙が生じていない。 ・2) 緑化ブロック、石積み（張）、法枠及びかごマット等で材料のかみ合わせ又は連結が適切で、裏込材の吸い出しの恐れがない。 ・3) 護岸工の端部や曲線部の処理、強度及び水密性が適切である。 ・4) 遮水シートの上流側が上になるように所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が適切である。 ・5) 植生工で、植生の種類、品質、配合及び施工後の養生が適切である。 ・6) 矢板の品質がミルシート等で確認できる。 ・7) 矢板打ち込みは導材を設置し、ぶれ、よじれ、倒れがなく、かみ合わせが適切である。 ・8) 材料の品質規格証明書等が整備されている。 ・9) 製品の品質管理が適切に行われ、納入月日が確認できる。 ・10) ブロックマットのアンカーピンの配置、打ち込みが適切になされている。 ・11) ロックマットは、所定の幅で重ねられている。 ・12) 丁張りを2重、3重に設けるなど、法勾配、裏込め材の厚さの確保のため細心の注意をはらっている。 ・13) 鉄線蛇籠工の使用では、詰め石のために籠が変形していないことが確認できる。 ・14) 口締めの閉じ、鉄筋はよくねじれ強く締められている。							上記該当あれば・d
II 品 質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工種	a	a'	b	b'	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II 品 質</p>	<p>護岸・根固・水制工事</p>	<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値(%)=評価数/対象評価項目数=○+△/評価対象数</p> <p>評価値=()評価数/()対象評価項目数=()%</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満…………… b'</p> <p>評価値が60%未満…………… c</p> <p>・コンクリートブロック積み(張)等にクラックがある場合、別紙-4の3項を参照し、c、dまたはe評価する。</p>						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	鋼橋工事 (RC床版工事はコンクリート構造物に準ずる)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【工場製作関係】 ・1) 鋼材の員数照合がミルシート等（現物照合を含む）で確認されている。 ・2) 塗装する面が乾燥状態であることが確認できる。 ・3) 素地調整の場合、第1種ケレン後4時間以内に金属前処理塗装を実施していることが確認できる。 ・4) 塗料の空缶管理が、写真等で確実に空であることが確認できる。 ・5) 塗料の品質が出荷証明書や塗料証明書で確認できる。 ・6) 塗装前の処理が適切に実施されていることが確認できる。 ・7) 仕様書に定められた制限内の気温及び湿度の条件下で、塗装を行っていることが確認できる。 ・8) 溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・9) 放射性透過試験又は超音波探傷試験により溶接箇所の試験結果報告書が作成され、適正に実施されたことが確認できる。 ・10) キャンバーが規格どおりに確保されている。 ・11) 溶接作業にあたり、溶接材料の使用区分が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ・12) 溶接施工に係る施工計画書を提出していることが確認できる。 ・13) 孔空けによって生じたまくれが削り取られているなど、きめ細やかに製作していることが確認できる。 ・14) 欠陥部の発生が見られないことが確認できる。 【架設関係】 ・1) ボルトの締付確認が実施され、適切に記録が保管されている。 ・2) ボルトの締付機、測定機器のキャリブレーションを実施している。 ・3) 支承の据付で、コンクリート面のチップング及びモルタル付着が確認でき、仕上げ面に水切り勾配がついている。 ・4) ボルトの品質がミルシート等で確認できる。 ・5) 架設の結果、塗装面を損傷していない。 ・6) 現場塗装で塗り残し、むら等がない。 ・7) 鋼材の保管にあたり、変形及び塗装面に損傷を与えないように適切に管理されている。 ・8) トルシアボルトの締め付け完了がピンテールの破断により、写真等によって確認できる。 ・9) 支承製品の品質が証明書等で確認できる。 ・10) 高力ボルトの締め付けを、中心から外側に向かって行っていることが確認できる。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。
II 品 質							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(検査員)

審査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
<p>3.出来形 及び出来 ばえ</p> <p>II 品 質</p>	<p>鋼橋工事 (RC床版 工事はコンクリ ト構造物に準 ずる)</p>	<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値 (%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数</p> <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上..... a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満..... a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満..... b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満..... b'</p> <p>評価値が60%未満..... c</p>							

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	砂防構造物及び地すべり防止工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 ・1) 地山との取り合わせが適切に行われている。 ・2) 施工基面が平滑に仕上げられ、所定の強度が確保されている。(出来上がりが波打っていない) ・3) 材料の品質規定証明書が整備されている。 ・4) ひび割れ有無の調査を実施し報告している(土木コンクリート構造物の品質確保における品質確認調査方法、適用範囲2) ・5) 新潟県コンクリート品質確保ガイドライン(案)に基づく取組を達成した(加点对象構造物以外は項目削除) 【砂防構造物工事に適用】 ・1) 設計図書に基づくコンクリートの配合試験又は試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格(強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等)が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) ・2) コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度、スランプ及び空気量等が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) ・3) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、バイブレーターによる締固及び養生方法等、適切に行っている。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) ・4) 型枠及び支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後の取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・5) コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 ・6) コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 ・7) コンクリートの現場養生用の供試体が、当該現場のものであることが確認できる。 ・8) コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 ・9) コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。(高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する) ・10) コンクリート打設前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。(平成20年3月14日付技第1037号) ・11) コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・12) 鉄筋の組立及び加工が適切であることが確認できる。 ・13) 基礎地盤が確認され、適切に基盤面が仕上げられていることが確認できる。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補(手直し)指示を行った。					
II	品						上記該当あれば・d	上記該当あれば・e
質								

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	砂防構造物 及び地すべ り防止工事	<ul style="list-style-type: none"> ・15) 排水パイプや吸い出し防止材が適切に施工されていることが確認できる。 ・16) 床固め及び帯工等との取り付け部が適切に施工されている。 ・17) 流路工の付属物の施工が適切に施工されている。 ・18) リフトスケジュールが作成され、コンクリート打設時期及び養生が適切に行われている。 <p>【根留め工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) かご工の積み方が適正で、変形がなく、垂直に立ち上がっている。 ・2) かごは芋目地にならないよう交互に積み上げられている。 ・3) 層積みの線が中だるみなく、水平に整っている。 ・4) 口締め閉じ、鉄筋はよくねじれ強く締められている。 ・5) かごマットや蛇籠の詰め石の施工が適切で空隙が生じていない。 ・6) かごマットや蛇籠の中詰め石が仕様書に定められた大きさと施工されている。 <p>【集水井戸工（ライナープレート工法）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) ライナープレート等の組立にあたり、偏心と歪みに配慮し施工を行っている。 ・2) ライナープレート等と地山との隙間が少なくなるように施工を行っている。 ・3) 地すべり状況を把握し、掘削中の地盤構造や湧水の記録が整備されている。 ・4) ライナープレート等を確実に固定できるように掘削が入念に施工され、ライナープレート端に触れることなく、鉛直方向に正確に施工されていることが確認できる。 ・5) ライナープレート等が仕様書に示す深さごとに1枚ずつ実施されていることが確認できる。 ・6) ライナープレート等の接続（ボルトと締付）が仕様書に示すとおり実施されている。 <p>【集水井戸工（自重沈下工法・セグメント工法）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 地すべり状況を把握し、掘削中の地盤構造、湧水の記録が整備されている。 ・2) 発進工の基本となる井筒発進工の底面は、水平かつ平坦に仕上げられている。 ・3) ブロックの組み立てにあたり、製品仕様のとおりボルト締めが確実に施工されている。 ・4) 井筒内の掘削作業にあたり、不当沈下による傾きを防止するため、掘削は中心部から外側に掘り進み、掘りすぎないように注意して施工されている。 ・5) 偏心に配慮し、水平・鉛直に対する施工管理を常に行っている。 ・6) 沈下作業にあたり、地山との摩擦力を軽減するための沈下砂利が均一に回るように施工されている。 ・7) 縦方向接合鉄筋を挿入する際に鉄筋の所定ラップ長が取れているか確認できる。 ・8) 縦方向接合鉄筋挿入孔に充填するセメントミルク施工に際し、所定の規格を満足しているか確認できる。 							
II	品								
質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	砂防構造物 及び地すべ り防止工事	<p>・9) 井筒頭部に施工する固定コンクリートについて、水平かつ平坦に施工されている。</p> <p>【抑止杭工】</p> <p>・1) 杭に損傷及び補修痕がないことを確認できる。</p> <p>・2) 既製杭の打ち止めの管理方法又は、場所打ち杭の施工管理方法が整理され、かつ、記録で確認できる。</p> <p>・3) 杭の偏心管理が確認できる。</p> <p>・4) 溶接の品質管理に関して、仕様書等に定められた事項が確認できる。</p> <p>・5) 杭の継ぎ手溶接、あるいは接続が丁寧に施工されていることが確認できる。</p> <p>・6) グラウト及び中詰コンクリートが、丁寧に施工されていることが確認できる。</p> <p>・7) グラウトの泥水処理において、適切に施工されていることが確認できる。</p> <p>【集水路工、排水路工】</p> <p>・1) 施設の出来上がりに凹凸がなく、丁寧に仕上げられている。</p> <p>・2) 既設道路及び水路施設等との取付けが、なじみが良く施工されている。</p> <p>【水抜きボーリング工】</p> <p>・1) 孔口間隔が正確であり、孔口の接続が丁寧に仕上げられている。</p> <p>・2) 保孔管内部の洗浄作業が確認できる。</p> <p>・3) 保孔管のストレーナー加工が適切であることを確認できる。</p> <p>・4) 孔口部の土砂崩壊防止、排水口の流末処理及び侵食防止が適切に施工されている。</p> <p>・5) 集排水ボーリング工の方向、角度、及び長さが設計図書に示されたとおりに適正になるよう、施工上の配慮がなされている。</p> <p>・6) 検尺について監督員の立合又は指示により確認されている。</p> <p>・7) 保孔管が掘削全延長に挿入されていることが確認できる。</p> <p>【落石、雪崩防止工】</p> <p>・1) 材料の品質規格証明書等が整備されている。</p> <p>・2) 施工基面を乱さないように施工されている。</p> <p>・3) 設置位置及び設置の方向などが適正に施工されている。</p> <p>・4) 基礎が地山となじみよく施工されている。</p> <p>・5) 基礎周辺の湧水の処理及び流水の洗掘処理が適切になされている。</p> <p>・6) ワイヤ式の防護工の場合は、張力にゆるみがないことが確認できる。</p>						
II								
品								
質								

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	砂防構造物及び地すべり防止工事	評定方法 ① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。 ③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △ (0.5) 評価できないもの ×(0) ④ 評価値 (%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数 評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () % 評価値が90%以上…………… a 評価値が80%以上～90%未満…………… a' 評価値が70%以上～80%未満…………… b 評価値が60%以上～70%未満…………… b' 評価値が60%未満…………… c						
		・コンクリートブロック積み（張）等にクラックがある場合、別紙-4の3項を参照し、c、dまたはe評価する。						
II	品							
質								

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	舗装工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					<p>・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。</p>	<p>・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。</p>
		<p>[評価対象項目]</p> <p>【路床・路盤工関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 路床及び路盤工のプルフローリングを行っており、沈下等の不具合があった場合は、良質の材料と入れ替えるなどの対策を行なっている。 ・2) 軟弱地盤など路床工にとって不適合なものに対し、対応策が取られている。 ・3) 材料を降ろす位置、方法及び材料の敷均しが適正な方法で行われ、材料分離していない。 ・4) 構造物周辺の締め固め等が適切に行われている。 ・5) 路床及び路盤工の密度管理が適切に行われている。 ・6) 材料の品質証明書が整理されている。 ・7) 掘削面の凹凸を除去し、均一な路床安定処理工が実施されている。 ・8) 舗装の出来上がりを左右する路盤工が、平坦に出来上がっていることが確認できる。 ・9) 設計図書に基づき、所定の厚さ管理及び品質管理が実施されている。 ・10) 構造物とのすり付けが適正に実施され、ゆるんだところがない。 ・11) 設計図書に基づいて、水溜まりや表面仕上げにキャタピラの跡がなく、平坦に仕上がっている。 ・12) 構造物周辺の締め固め等で、振動ローラ等による入念な施工が実施されている。 ・13) 設計図書に定められた試験方法でC R R値を測定していることが確認できる。 <p>【アスファルト舗装関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 設計図書に基づく混合物の配合設計及び試験練りが行われており、適切な混合物の規格が確認できる。(アスファルト混合物の事前審査制度の適用工事は除く) ・2) 混合物の温度管理が、プラント出荷時、現場到着時及び舗設時等で整理、記録されている。 ・3) 舗設後、直ちに供用する必要のある現場で、交通解放時の温度管理を適切に行っている。 ・4) 舗設の各層の継ぎ目が、仕様書に定められた数値以上にずらしていることが確認できる。 ・5) 目地の処理が、仕様書に定められたとおりであることが確認できる。 ・6) 気象条件に適した混合物の運搬方法及び舗設作業(締め固め等)の配慮が行われている。 ・7) 乳剤が均一に散布され、第三者への飛散防止対策及び構造物への付着など、細心の注意が払われている下で適正に塗布されている。 ・8) アスカーブの施工において、細かな配慮がなされ丁寧に施工されている。 ・9) 路肩処理及び端部処理の施工において、細やかな配慮がなされ丁寧に施工されている。 ・10) 密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 						
II 品 質							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(検査員)

審査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	舗装工事	<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値 (%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数</p> <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上..... a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満..... a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満..... b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満..... b'</p> <p>評価値が60%未満..... c</p>							
II									
品									
質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	海岸工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		[評価対象項目] 【共通】 <ul style="list-style-type: none"> 1) 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩基総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） 2) コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度、スランプ及び空気量等が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） 3) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレータによる締固及び養生方法等適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） 4) 型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後の取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 5) コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 6) コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 7) コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 8) コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 9) コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） 10) コンクリート打設前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成20年3月14日付技第1037号） 11) 施工基面が平坦に仕上げられている。 12) 材料の規格及び品質が試験成績表等で確認できる。 13) 海岸部に保管する型枠のセパレートや組立の鉄筋等は、錆防止対策を行っている。 14) 濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認できる。 15) 有害なクラックが無い。 16) 工事期間中、1日1回は潮位観測を実施して記録していることが確認できる。（ブロック製作などの工程を除く） 17) 台風などの異常気象に備えて施工前に避難場所の確保及び退避設備の対策を講じていることが確認できる。 18) ひび割れ有無の調査を実施し報告している（土木コンクリート構造物の品質確保における品質確認調査方法、適用範囲2） 19) 新潟県コンクリート品質確保ガイドライン（案）に基づく取組を達成した（加対象構造物以外は項目削除） 						
 品 質							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	海岸工事	<p>【護岸・消波工事・離岸堤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) コンクリートブロックの転置及び仮置に際し、強度確認を行っている。 ・2) コンクリートブロックの仮置きで転倒や崩壊等の恐れがない。 ・3) 設置されたブロックに破損や補修痕のないことが確認できる。 ・4) 砂地や岩盤への根入れが適正で、不等沈下や背後土砂のパイピング等がない。 ・5) 上部構造物の継ぎ目から背後土砂の流出がないことが確認できる。 ・6) 異形ブロック等を現場で製作しているものは、型枠搬入時に仮組等を実施し、寸法、歪み及び傷等をチェックしている。 ・7) 異形ブロックの製作で豆板、かけ及び型枠の目違いが規定の範囲であることが確認できる。 <p>【突堤工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 捨石基礎の均し面が平坦に仕上げられていることが確認できる。 ・2) 捨石の基盤に敷設する帆布は、重ね合わせなどが適切に行われている。 ・3) 方塊ブロックが垂直に据えられていることが確認できる。 ・4) 捨石基礎は、大小の石でかみ合わせが良く、均し面にゆるみがないよう施工されていることが確認できる。 ・5) 岩着の基礎工は、岩の状態を把握し、表面の藻及び砂などを除去した上で施工されている。 ・6) 水中コンクリートの品質規格が確認できる。 ・7) 水中コンクリートの打設に際し、海水混入の防止策を実施している。 <p>【上部工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 施工の打ち継ぎ目では、位置が適正で、コンクリート打設前の清掃等が適切に行われている。 <p>【中詰、被覆などの基礎工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 中詰めに使用する石の計量が適切であることが確認できる。 ・2) 基礎工は、大小の石でかみ合わせ良く、均し面にゆるみがないよう施工されていることが確認できる。 ・3) 基礎に敷設する帆布等の破れがなく、所定の重ねが写真記録等により確認できる。 ・4) 捨て石基礎の均し面が平坦に仕上げられていることが確認できる。 							
II									
品									
質									

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ II 品 質	海岸工事	<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値 (%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数</p> <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上..... a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満..... a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満..... b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満..... b'</p> <p>評価値が60%未満..... c</p>						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	法面工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					<p>・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。</p>	<p>・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。</p>
		<p>[評価対象項目]</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 施工基面が平滑に仕上げられている。 ・ 2) 湧水や地表水の処理が適切で侵食、亀裂等がない。 ・ 3) ラス張工は、地山に均等になじむように張られ、浮いているところがないように施工されている。 ・ 4) 金網、ネット等が仕様書のとおり施工され、仕上げ面から適正な間隔を保ち固定されている。 ・ 5) 法肩の地山への巻き込みが適正に施工されている。 ・ 6) ネットの設置にあたり法面への固定方法が適切である。 ・ 7) 地山表面の不純物の除去が確実に実施されている。 ・ 8) 盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう締固めを十分行っていることが確認できる。 <p>【種子吹付工、客土吹付工、厚層基材吹付工関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 土壌試験を実施し、施工に反映している。 ・ 2) ネット等の重ね幅が10cm以上確保されている。 ・ 3) 吹付け厚さが均等である。 ・ 4) 吹付け厚さによって必要な場合、二層以上の吹き付けは、層を分けて施工していることが確認できる。 ・ 5) 跳ね返り材料が適切に処理されている。 ・ 6) 厚さによる二層以上の吹き付けでは、剥離かないことが確認できる。 ・ 7) 種子の品質が適正なことが書類等で確認できる。 ・ 8) 施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。 <p>【コンクリート又はモルタル吹付工関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ・ 2) 金網等の重ね幅が10cm以上確保されている。 ・ 3) 吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。 ・ 4) 吹付け厚さが均等である。 ・ 5) 吹付け厚さに応じて2層以上に分割して施工していることが確認できる。 ・ 6) 跳ね返り材料が適切に処理されている。 ・ 7) 法肩の吹付けにあたり、地山に沿って巻き込んで施工していることが確認できる。 ・ 8) 金網が仕様書のとおり施工され、仕上げ面から適正な間隔を保ち固定されている。 						
II 品 質							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ II 品 質	法面工事	<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値(%)=評価数/対象評価項目数=○+△/評価対象数</p> <p>評価値=()評価数/()対象評価項目数=()%</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満…………… b'</p> <p>評価値が60%未満…………… c</p>						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	基礎工事	<ul style="list-style-type: none"> ・5) スライム処理が適正に行われていることが確認できる。 【ケーソン】 ・1) ケーソンの位置及び沈下速度が管理資料から適切であることが確認できる。 ・2) 施工基盤が平板裁荷試験で堅固であることが確認できる。 ・3) 型枠は、表面がきれいになっているものを使うために適正に処理がなされている。 ・4) 打ち継ぎ目の処理が適切に行われている。 【コンクリート工（場所打ち杭の中詰め用等）】 ・1) 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格。（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） ・2) コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度、スランプ及び空気量等が確認できる。（同 上） ・3) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間及び打込み時の投入高さ等が適切に行われている。 ・4) コンクリートの現場養生用の供試体が、当該現場のものであることが確認できる。 ・5) 機器及び部品等で性能検査を行うものは、製造者又は公的機関の証明書が整備されている。 ・6) コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたり、アルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 ・7) コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成20年3月14日付技第1037号） ・8) コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・9) 鉄筋の組立及び加工が適切であることが確認できる。 ・10) スペーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・11) 鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・12) 鉄筋の規格、引張強度及び曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・13) 重要構造物に係る主鉄筋について、引張試験曲げ試験を行っている。（平成19年6月12日付技第1007号） ・14) 鉄筋の重ね合わせ長が、設計図書どおりであることが確認できる。 							
II									
品									
質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(検査員)

審査項目	工種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ II 品 質	基礎工事	評定方法 ① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。 ③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0) ④ 評価値(%)=評価数/対象評価項目数=○+△/評価対象数 評価値=()評価数/()対象評価項目数=()% 評価値が90%以上..... a 評価値が80%以上~90%未満..... a' 評価値が70%以上~80%未満..... b 評価値が60%以上~70%未満..... b' 評価値が60%未満..... c							

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	地盤改良工事（サンドマットは【盛土・築堤】で評価）	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 ・1) 使用材料は、数量をはじめ、安全性が確認できる品質証明書が整理されている。 ・2) 施工ポイントにロッドのセンターが合っているか、ロッドの寸法及び残尺をもって確認できる。 ・3) 機械の安定を確保し、垂直精度を確認することにより孔曲がりの防止につとめ、水平度及び鉛直度が確保されている。 ・4) 注入量は流量計を使用し、規定分の注入材を注入したことが確認できる。 ・5) 改良地盤にあっては、施工箇所が均一に改良され、十分な強度及び支持力があることが確認できる。 ・6) 工事着手前に配合試験及び一軸圧縮試験等を実施し、それに基づいた施工が実施されている。 ・7) セメントミルクの比重、スラリー噴出量、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。 【薬液注入工】 ・1) 薬液の配合は、常に設定されたゲルタイムになるよう日々管理がなされている。 ・2) 注入順序はステップアップ方式とし、正規の間隔で引き上げ管理していることが確認できる。 ・3) 注入は、吐出量を一定に保つように圧力管理が実施されている。 ・4) 注入状況を証明する記録用紙には、監督員の検印されたもので整理されている。 ・5) 注入完了後は、設計を満足する結果かどうかを透水試験等により確認されている。 ・6) 薬液注入箇所周辺の地下水及び公用水域等の水質汚濁の状況を監視し、測定結果が水質基準に適合していることが確認できる。 【高圧噴射攪拌工】 ・1) 噴射テストにより施工仕様の確認を実施している。 ・2) 造成の際には、圧力や回転数などの施工仕様に基づき管理されていることが確認できる。 ・3) 注入材の管理は、常に練り上がった注入材の比重をマッドバランスで管理し、日々測定の比重管理が実施されている。 ・4) 規定の有効径が確保され、一軸圧縮強度試験により強度管理されている。 ・5) 六価クロム溶脱に対する確認が実施されている。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		Ⅱ 品 質	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。				
							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II 品 質</p>	<p>地盤改良工事（サンドマットは【盛土・築堤】で評価）</p>	<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値(%)=評価数/対象評価項目数=○+△/評価対象数</p> <p>評価値=()評価数/()対象評価項目数=()%</p> <p>評価値が90%以上..... a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満..... a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満..... b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満..... b'</p> <p>評価値が60%未満..... c</p>						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	コンクリート橋工事 (PC及びRCを対象)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 ・1) 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格(強度・w/c・最大骨材粒径・塩基総量等)が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) ・2) コンクリート打込み時に必要な供試体を採取し、強度、スランプ及び空気量等が確認できる。(同上) ・3) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、バイブレーターによる締固及び養生方法等が適切に行なわれている。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) ・4) 型枠及び支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後の取り外し時期が、コンクリート強度等で適正に管理されている。 ・5) 鉄筋の規格、引張強度及び曲げ強度の試験値をミールシート等で確認できる。 ・6) コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・7) スペーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・8) 鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・9) 鉄筋の組立及び加工が適切であることが確認できる。 ・10) 鉄筋の重ね合わせ長が、設計図書どおりであることが確認できる。 ・11) コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 ・12) コンクリートの現場養生用の供試体が、当該現場のものであることが確認できる。 ・13) コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 ・14) コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 ・15) コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。(高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する) ・16) コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。(平成26年8月19日付技第1019号) ・17) 微破壊・非破壊によるコンクリート強度測定を実施している(橋長30m以上橋梁)(平成31年2月15日付技第1035号) ・18) 非破壊試験による配筋状態及びかぶり測定を行っている。(平成31年2月15日付技第1035号) ・19) ひび割れ発生状況調査を実施している(土木コンクリート構造物の品質確保における品質確認調査方法、適用範囲1) ・20) ひび割れ有無の調査を実施し報告している(土木コンクリート構造物の品質確保における品質確認調査方法、適用範囲2)					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
II 品 質							・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補(手直し)指示を行った。
							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	コンクリート橋工事 (P C及びR Cを対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・21) 有害なクラックが無い。 ・22) 新潟県コンクリート品質確保ガイドライン (案) に基づく取組を達成した (加対象構造物以外は項目削除) <p>【製作関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 製品の員数をはじめ規格の照合がミルシート等 (現場照合を含む) で確認できる。 ・2) 作業実施前に装置 (機器) のキャリブレーションが実施されている。 ・3) スペーサーの材料が適正で、品質が確認できる。 ・4) プレベーム桁プレクションで適正に実施されている。 ・5) 緊張及びグラウト管理が適切に管理されている。 ・6) プレストレッシング時のコンクリート強度が、最大圧縮応力度の1.7倍以上であることが確認できる。 <p>【架設関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 支承の据付で、コンクリート面のチップング及びモルタルでの付着が確認でき、仕上げ面に水切り勾配がついている。 <p>評定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。 ③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △ (0.5) 評価できないもの ×(0) ④ 評価値 (%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満…………… b'</p> <p>評価値が60%未満…………… c</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラックがある場合、別紙-4の3項を参照し、c、dまたはe評価する。 						
II	品							
質								

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	塗装工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。
		[評価対象項目] ・1) 塗装する面が乾燥状態であることが確認できる。（重ね塗りの場合も含む） ・2) ケレンが入念に実施されていることが確認できる。 ・3) 施工時の天候、気温及び湿度等の条件が整理、記録されており、適正な気象条件下で塗装をしている。 ・4) 塗料を使用前に攪拌し、容器底部に顔料が沈殿していないことが確認できる。 ・5) 塗料に有害な付着物がない。 ・6) 塗料の空缶管理が写真等で確実に確認できる。 ・7) 上向きなど塗装しにくいところが入念に施工されている。 ・8) 締め付けボルト、橋台と桁の間及び隅の所で塗り残しがない。 ・9) 仮設足場の跡などの塗り残しや色違いの塗装のないことが確認できる。 ・10) 塗膜の表面に気泡やへこみがないことが確認できる。 ・11) 設計図書に示された数量が、使用前後で資料により確認できる。 ・12) 塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。 評定方法 ① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。 ③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0) ④ 評価値(%)=評価数/対象評価項目数=○+△/評価対象数 評価値=()評価数/()対象評価項目数=()% 評価値が90%以上..... a 評価値が80%以上～90%未満..... a' 評価値が70%以上～80%未満..... b 評価値が60%以上～70%未満..... b' 評価値が60%未満..... c						
II 品 質							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	トンネル工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 【無筋】 ・1) 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） ・2) コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度、スランプ及び空気量等が確認できる。（同上） ・3) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、バイブレーターによる締固及び養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・4) 鉄筋の規格、引張強度及び曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・5) 鉄網の保管管理が適正であることが確認できる。 ・6) コンクリート打設までの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・7) 日々計測管理を行っており、それに基づいた施工が行われていることが確認できる。 ・8) 型枠及び支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後の取り外し時期が、コンクリート強度等で適正に管理されている。 ・9) コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 ・10) コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 ・11) コンクリートの現場養生用の供試体が、当該現場のものであることが確認できる。 ・12) 鉄筋の組立、加工が適切であることが確認できる。 ・13) スペースを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・14) 鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・15) 鉄筋の重ね合わせ長が、設計図書どおりであることが確認できる。 ・16) コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 ・17) コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。（高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） ・18) コンクリート打込み前に単位水量試験または水セメント比試験を実施している（平成26年8月19日付技第1019号） ・19) 施工中の地質、湧水の状況、支保工や覆工の変状等を観察、記録し適切な対処がなされている。 ・20) 現場でのセメント及び混和剤等の保管管理では、防湿性の高いサイロ及び倉庫で管理されている。 ・21) 設計図書に定められた岩区分（支保工パターン含む）の境界を確認して施工を行っていることが確認できる。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
II 品 質							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	トンネル工 事	<p>・22) 有害なクラックが無い。</p> <p>【掘削】</p> <p>・1) 掘削は、地山を緩ませないように、かつ出来る限り滑らかに仕上げ、支保工との間隙（余掘）が少ないように施工している。</p> <p>・2) 爆破後の掘削面のゆるんだ部分や浮き石を丁寧に除去している。</p> <p>【支保工】</p> <p>・1) 金網の継ぎ目を15cm（1目）以上重ね合わせていることが確認できる。</p> <p>・2) 吹き付けコンクリートは浮き石等を除いた後に、15cm以下の厚さで地山と密着するよう施工されている。</p> <p>・3) 吹き付けコンクリートの打ち継ぎ部の施工では、清掃及び湿潤状態が確認できる。</p> <p>・4) ロックボルト挿入前にくり粉除去の清掃がなされている。</p> <p>・5) ロックボルトの引き抜き耐力の確保のために、穿孔が荒れることがないように丁寧な施工が行われている。</p> <p>・6) ロックボルトの定着長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。</p> <p>・7) 吹付コンクリートの配合及びロックボルトの種別、規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。</p> <p>・8) 設計図書とおりに鋼製支保工の間隔が守られている。</p> <p>・9) 鋼製支保工の立て込み設置が良好で、吹き付けモルタルとの隙間がなく、丁寧な施工がうかがえる。</p> <p>【覆工】</p> <p>・1) 逆巻の場合、側壁コンクリートとアーチコンクリートの打継目が同一線上にないことが確認できる。</p> <p>・2) 防水シートの品質、形状が設計図書どおりになっている。</p> <p>・3) 防水シートの溶着を確実にし、湧水やひび割れのないコンクリートの仕上がりが確認できる。</p> <p>・4) 防水工に防水シートを使用する場合は、ロックボルト等の突起物にモルタルや保護マット等で防護対策を行っていることが確認できる。</p> <p>・5) インバートは、打ち継ぎ目に注意した施工が実施されている。</p> <p>・6) 湧水処理対策として埋設される排水材が的確に施工され機能している。</p> <p>・7) 覆工コンクリートは、打込み時に型枠に変圧を与えていないことが確認できる。</p> <p>・8) 巻き立て補強鉄筋は、所定のカブリが確保されている。</p>							
II	品								
質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(検査員)

審査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II</p> <p>品</p> <p>質</p>	<p>トンネル工事</p>	<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値 (%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数</p> <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上..... a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満..... a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満..... b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満..... b'</p> <p>評価値が60%未満..... c</p> <p>・クラックがある場合、別紙-4の3項を参照し、c、dまたはe評価する。</p>						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	公園・植栽	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補(手直し)指示を行った。
	工事	[評価対象項目] 【共通】 ・1) 材料の規格、品質が適正であり、証明書等が整備されている。 ・2) 路床及び路盤工のプルーフローリングを行っている。 ・3) 石積み、二次製品側溝等の材料のかみ合わせ又は連結が適正で、裏込め材料等の沈下、崩壊又は漏水のおそれがない。 ・4) 雨水等のたん水が生じないように排水対策を実施している。 ・5) 盛土材の品質、形状が設計図書に基づくものになっている。 ・6) 締め固めを適切な条件で施工している。 【舗装工・表層工】 ・1) 設計図書に基づく混合物は、配合報告書により適切な配合規格が確認できる。 ・2) クレー(混合土)表層材料の混合が入念に行われ、品質が均一であることが書類等で確認できる。 ・3) 平板、レンガやタイル舗装等の目ずれがなく、共通仕様書等に定められたとおり処理されていることが確認できる。 ・4) 排水勾配が適正に守られ、水溜まりが生じていない。 【植栽工】 ・1) 土壌硬度試験及び土壌試験(PH)を実施し施工に反映している。 ・2) 活着管理が適正に行われている。 ・3) 樹木等に損傷やはちくずれ等がなく、保護養生が適切になされている。 ・4) 樹木等の生育に害のあるものは除去されている。 ・5) 余剰枝の剪定や整形その他必要な手入れが行われている。 ・6) 肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥されている。 ・7) 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り植穴底部を耕していることが確認できる。 ・8) 土壌改良においては、設計に基づく改良深さ、改良材の添加量が確保され、均一に混合されている。 ・9) 日焼け、病虫害を防止するため幹巻きなどが適切に行われている。 ・10) 支柱を、全体的な美観を考慮し、緩みなく堅固に設置している。 ・11) 添木をぐらつきがないよう設置していることが確認できる。 ・12) 鳥居は、全体的な美観を考慮して、高さ、方向など統一されて施工されている。						
II	品						上記該当あれば・d	上記該当あれば・e
質								

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形及び出来ばえ	防護柵 (綱)視線 誘導標 標識・照明 灯・区画線 等設置工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補(手直し)指示を行った。	
		[評価対象項目] 【共通】 ・1) ボルトは資材に対し直角に通リ、緩みなく締め付けが十分であることが確認できる。 ・2) シールは位置、高さなどの点で適正に貼られ、しわが寄っていない。 ・3) 防護柵の設置基準、視線誘導標設置基準、道路標識ハンドブック等の規定を満足していることが確認できる。 【防護柵】 ・1) 製品の損傷、キズ、へこみなどかないことが確認できる。 ・2) 防護柵は、垂直に立ち、規格どおりの高さに設置され、道路の路側構造物との位置関係が図られている。 ・3) 連結するボルト等にゆるみがない。 ・4) 支注とレール及びロープにゆがみがない。 ・5) ケーブル型防護柵の曲線部では、支柱がケーブル張力によって傾かないように施工されている。 ・6) 支柱を打ち込む場合は、地盤をゆるめないように注意して施工され、また穴を掘って立て込む場合は、十分に突き固めて埋め戻しされている。 ・7) 支柱を支える基礎は、規格どおりに出来上がり、高さ、位置は設計図書に適合することが確認できる。 ・8) 防護柵等の床掘りの仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。 ・9) ガードケーブルを支柱に取付ける場合、設計図書に定められた所定の張力を与えているのが確認できる。 ・10) ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打込みしたコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。 【視線誘導標・道路標識】 ・1) 製品の損傷、キズ、へこみなどかないことが確認できる。 ・2) 視線誘導標や道路標識は垂直に立ち、規格とおりの高さに設置され、道路の路側構造物との位置関係が適切である。 ・3) 色彩及び反射性能を試験結果報告書などで確認できる。 ・4) 構造物強度、地耐力の確認が出来る。							
II	品							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e
質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	維持修繕工 事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 	<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。
		<p>[評価対象項目]</p> <p>【（防雪）柵設置工事（組み立て、収納、撤去）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支線の設置方法及びターンバックルの締め付けが適切であり、堅固に固定されている。 返納材料が部材毎に整備され、指定保管場所に適切に集積されていることが確認できる。 部材形状がきめ細かに調整され、各スパンが均一に施工されていることが確認できる。 締め付けボルト、固定金具の取り付け状況を入念に点検し、施工されていることが確認できる。 製品に新材がある場合、キズ、へこみ及び塗装のはがれがないことが確認できる。 <p>【舗装道維持修繕工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計図書に基づく混合物の配合報告書により、適切な混合物の規格が確認できる。 舗装が入念に実施されており、周縁部との段差や隙間などがなく、確実な密着が確認できる。 施工面の水やゴミ等の有害物を除去後に舗装したことが確認できる。 プライマーが適切な方法により均一に散布又は塗布されていることが確認できる。 打ち換えの舗装補修では、路盤の不陸が確実に修正され、切削工では切削面が平坦に出来上がっている。 <p>【道路維持修繕工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料（二次製品）の規格及び品質が適正であり、証明書等が整備されている。 基礎及び支柱が沈下しないよう、設置孔の基礎部が十分締め固められ、堅固に立て込まれている。 取り替え前に、既存部材の形状等がきめ細かに調整され、支障なく本来の機能が確保されている。 蓋掛け前に、施工区間内側溝の清掃が実施され、蓋のガタツキがないことが確認される。 構造物、道路付属物周辺の除草及び伐採が実施されている。 <p>【河床整形工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施工基面が平滑に仕上げられている。 土砂等の流出や既存施設への影響が生じないよう適切に施工している。 灌木等の伐採漏れがなく、切断高さは設計図書に従って対象範囲を確実に処理している。 伐採及び撤去物の処理が適正に行われていることが確認できる。 						
II	品							
質								

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	維持修繕工 事	<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値(%)=評価数/対象評価項目数=○+△/評価対象数</p> <p>評価値=()評価数/()対象評価項目数=()%</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満…………… b'</p> <p>評価値が60%未満…………… c</p>							
II									
品									
質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	港湾築造工 事（浚渫・ 海岸築造工 事を含む）	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。 	<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。
		[評価対象項目] 【共通】 ・1) 濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認できる。 ・2) 鋼材の規格や数量がミルシート等（現物照合を含む）で確認できる。 ・3) 溶接及び切断の品質管理に関して仕様書に定められた事項が確認できる。 ・4) 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩基総量等）が確認できる。 ・5) コンクリート打設時の必要な供試体を採取し、強度、スランプ及び空気量等が確認できる。 ・6) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、バイブレーターによる締固及び養生方法を適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・7) 型枠及び支保工の組立が適正で、コンクリート打設後の取り外し時期が、コンクリート強度等で適正に管理されている。 ・8) コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 ・9) コンクリート打設時に雨水やわき水が適切に処理されている。 ・10) コンクリート打設前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 ・11) コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。（高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） ・12) コンクリート打設前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成26年8月19日付技第1019号） ・13) 既設構造物に影響のないよう十分検討して施工されている。 ・14) 捨石、被覆石などの材料の規格及び品質が試験成績表等（現物照合を含む）で確認できる。 ・15) コンクリート打設までの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・16) 鉄筋の組立や加工が適切であることが確認できる。 ・17) スペーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・18) 鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・19) 鉄筋の規格、引張強度及び曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・20) 工事期間中、1日1回は潮位観測を実施して記録していることが確認できる。 ・21) 台風などの異常気象に備えて施工前に避難場所の確保及び退避設備の対策を講じていることが確認できる。						
II	品							
質								

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	港湾築造工 事（浚渫・ 海岸築造工 事を含む）	<p>【本体：杭及び矢板、控工関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 杭及び矢板に損傷及び補修痕がなく施工されている。 ・2) 杭及び矢板の打止め施工管理方法等が整備され、かつ記録が確認できる。 ・3) 溶接及び切断の品質管理に関して、仕様書に定められた事項が確認できる。 ・4) 腹起こし材を全延長にわたり規定の水平高さに取り付け、ボルトで十分締め付け矢板壁に密着させている。 ・5) 鋼材の保管にあたり、変形及び塗覆装面に損傷を与えないよう、適切に処理されている。 ・6) 控索材は隅角部等特別な場合を除き、矢板法線に対して直角に設置されている。 ・7) 捨石等の規格及び計量が確認できる。 <p>【本体：ケーソン関係、ブロック据付関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) ケーソン進水、仮置、曳航及び回航の施工上の注意事項（仕様書による）が守られている。 ・2) ケーソン仮置に先立ち仮置場を調査し、仮置作業が所定の位置に異常なく行われている。 ・3) ケーソン据付に先立ち、気象や海象等を十分調査し、据付作業が所定の精度で行われている。 ・4) ケーソン据付等及び中詰において、ケーソン及び既設構造物等の破損がなく施工されている。 ・5) コンクリートブロック据付に先立ち、気象や海象等を十分調査し、据付作業が所定の精度で行われている。 ・6) ロック据付等について、ブロック及び既設構造物等の破損がなく施工されている。 ・7) 乱積でコンクリートブロック相互のかみ合わせがよく、孤立したブロックがないことが確認できる。 ・8) 異形ブロック等を現場で製作したものは、型枠搬入時に仮組等を実施し、寸法、歪み及び傷等をチェックしている。 ・9) 異形ブロックの製作で、豆板、かけ及び型枠の目違いが規定の範囲であることが確認できる。 <p>【防波堤工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 捨石基礎の均し面が、平坦に仕上げられていることが確認できる。 ・2) 捨石の基盤に敷設する帆布は、重ね合わせなど適切に行われている。 ・3) 捨石基礎は、大小の石でかみ合わせが良く、均し面にゆりみがないよう施工されていることが確認できる。 ・4) 岩着の基礎工は、岩の状態を把握し、表面の藻や砂などを除去した上で施工されている。 ・5) 水中コンクリートの品質規格が確認できる。 <p>【上部工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 施工の打ち継ぎ目では、位置が適正で、コンクリート打込み前の清掃等が適切に行われている。 ・2) 有害なクラックがない。 							
II	品								
質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形及び出来ばえ	港湾築造工事（浚渫・海岸築造工事を含む）	<p>【中詰、被覆などの基礎工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 中詰めに使用する石の計量が適切であることが確認できる。 ・2) 大小の石でかみ合わせ良く、均し面にゆるみがないよう施工されていることが確認できる。 ・3) 基礎に敷設する帆布等の破れがなく、所定の重ねが写真記録等により確認できる。 ・4) 捨て石基礎の均し面が平坦に仕上げられていることが確認できる。 <p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値(%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数</p> <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満…………… b'</p> <p>評価値が60%未満…………… c</p>							
II	品								
質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	道路工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					<p>・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。</p>	<p>・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。</p>
		<p>[評価対象項目]</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 出来上がりの平坦性が確保されている。 ・2) 排水勾配が適正にセットされ、水溜まりが生じていない。 ・3) 乗り入れ箇所などの接合部がスムーズに取り付けられている。 ・4) 歩車道境界ブロックなど製品の並びがきれいに通っている。 ・5) 付属構造物との接合部など、路盤面にたわみがない。 ・6) 路体盛土の施工前に段切り等を適切に行われている。 ・7) 路体盛土の締め固めを適切な条件で施工されている。 ・8) 路体盛土の密度管理が適切に行われている。 <p>【路床・路盤・路床安定処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 路床及び路盤工のブルーフローリングを行っており、沈下等の不具合があった場合は、良質な材料で入れ替えるなどの対策を行っている。 ・2) 材料をおろす位置、方法及び材料の敷均しが適正な方法で行われ、材料分離していない。 ・3) 構造物周辺の締め固め等が適切に行われている。 ・4) 路床や路盤工の密度管理が適切に行われている。 ・5) 材料の品質証明書が整理されている。 ・6) 路盤材に不適な混合物の混入防止が図られ、混入のないことが確認できる。 ・7) 路床や路盤が均一に仕上げられていることが確認できる。 ・8) 軟弱地盤などの地盤改良が試験結果に基づき適正に行われていることが確認できる。 ・9) 固化材は、数量はじめ、安全性が確認できる品質証明が整理されている。(追加) ・10) 固化材の添加量とC B Rの関係から目標とするC B Rに対応する添加量を求めている。(追加) ・11) m²あたり又は1袋あたりの固化材の散布量が確認できる。(追加) ・12) 処理前の軟弱路床土は湿地ブルドーザーで所定の高さに整正している。(追加) ・13) バケットクレーン、ライムスプレッド、人力等で固化材を所定量均一に散布している。(追加) ・14) 散布及び混合に際して粉塵対策を施す必要がある場合は、防塵型の安定材を用いたり、シートの設置などの対策をとっている。(追加) ・15) 所定の深さまで混合攪拌したことが確認できる。(フェノール液で確認) (追加) 						
II 品 質							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	歩道工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。						・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		[評価対象項目] 【土工】 ・1) 掘削を行うにあたり、路床以下を乱さないように施工していることが確認できる。 ・2) 締め固めを適正な条件で施工していることが確認できる。 【路盤・舗装工】 ・1) 表面排水が良好である。 ・2) アスファルト舗装の現場密度及び舗設温度等の品質管理が適切に行われている。 ・3) 段差解消などバリアフリー対策として、舗装の平坦性が確保されている。 ・4) 路盤工の密度管理が適正に実施されている。 ・5) 材料の品質証明書が整理されている。 ・6) 構造物周辺の締め固めが適切に実施されている。 【付属構造物等】 ・1) コンクリート側溝が平坦に仕上げられ、蓋の収まりが良く、ガタツキがない。 ・2) 付属構造物や製品等の規格、品質及び性能等が成績証明書で確認できる。 ・3) 排水勾配が適正にセットされ、水溜まりが生じていない。 ・4) 付属構造物との接合部などで、舗装面のたわみがない。						・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補（手直し）指示を行った。
II 品 質								上記該当あれば・d	上記該当あれば・e

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II</p> <p>品</p> <p>質</p>	<p>歩道工事</p>	<p>評定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。 ③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △ (0.5) 評価できないもの ×(0) ④ 評価値 (%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○ + △ / 評価対象数 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上..... a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満..... a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満..... b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満..... b'</p> <p>評価値が60%未満..... c</p>						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	消雪工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補(手直し)指示を行った。	
		[評価対象項目] 【削井工・取水施設工】 ・1) 材料の品質規格証明書等が整備されている。 ・2) 設計図書に示められたとおりに、ストレーナーの位置が正確に設置されている。 ・3) ケーシングパイプの挿入に壁面の崩壊がないことが確認できる。 ・4) 充填材に均一な砂利が使われている。 ・5) 井戸が鉛直であることが確認できる。 ・6) 揚水試験を適切に行い、施工に反映している。 ・7) 削井完了後、電気検層により記録が適正に管理されている。 ・8) ポンプの据え付け位置が適切である。 ・9) 電気設備及びポンプが正常に稼動することが確認できる。 ・10) 機器の性能や機能が設計図書どおりであることが確認できる。 ・11) 製造者による試験等が的確に行われ、設計図書に適合する証明書が整備されている。 ・12) 施工の品質や形状が的確で良好な施工である。 ・13) 機器の適切性が確認でき、試験運転の記録が確認できる。 ・14) 不可視部分が写真等の資料から、適切に施工されたことが確認できる。 【散水工】 ・1) コンクリート二次製品の場合は、損傷のないもので、品質や規格が証明書により確認できる。 ・2) アスファルトカッターによる舗装切断は、慎重な施工によるやり直しがないことが確認できる。 ・3) 掘削面以下を乱さないように入念に施工され、施工基面が平坦に仕上げられている。 ・4) 補修痕等がなく、施工方法が適正に行われたことが工事写真等の記録により確認できる。 ・5) ノズルのコンクリート面が平坦に仕上げられ、孔の位置が流動方向を考慮して適切に設置されている。 ・6) 既設構造物との取り合い及び、曲線部の施工が適切に行われている。 ・7) 鉄筋及びコンクリートの施工が適切に行われている。 ・8) 二次製品は、ブロックの接合でねじれがなく、滑らかで、かつ適切な隙間間隔で施工されていることが確認できる。 ・9) 現場打ちのノズル位置が適正に設置されていることが確認できる。 ・10) 二次製品の設置後の埋め戻しは、締め固めに注意が払われ、適切に行われていることに加えて、沈下の状況がない。							上記該当あれば・d
II	品								
質									

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ Ⅱ 品 質	消雪工事	<p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △ (0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値 (%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数</p> <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満…………… b'</p> <p>評価値が60%未満…………… c</p>							

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形及び出来ばえ	下水道工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) マンホールにおいて出来形管理基準を満足し、連結部には止水シール、止水ゴムが適切に設置されている。 ・ 2) インパートは形状、勾配等が適正で漏水がない。 ・ 3) 防食被覆が入念に実施され、かつ表面が滑らかである。 ・ 4) マンホールにおいて各部材にクラック等がなく、漏水がない。 ・ 5) マンホールの足掛金具の位置、方向及び出方が適正で、鉄蓋位置については、ガタツキがなく仕上がり、天端高さも適正である。 ・ 6) 材料の品質規格証明書等が整備されている。 ・ 7) 出来形管理基準を満足しており、目立った屈曲や沈下がない。 ・ 8) 管渠において漏水個所がなく、影響を与えるクラックや変形がない。 ・ 9) 管渠継ぎ手部及びマンホール連結部の目地仕上げが良好である。 ・ 10) 不可視部分が写真等の資料から適正に施工されていたことが確認できる。 ・ 11) マンホール用品の規格及び品質がミルシートで確認できる。 ・ 12) 管渠の規格及び品質がミルシートで確認できる。 					・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。	
		【開削工】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 管渠継ぎ手部ボルトの締め付け確認が実施され、適正に記録が管理されている。 ・ 2) 置き換えのための掘削を行うにあたり、掘削面以下を乱さないように施工している。 ・ 3) 埋め戻しにおいて締固めが適正な方法で施工されており、工事終了後に沈下がない。 ・ 4) 混合物の温度管理が、プラント出荷時、現場到着時及び舗設時等で整理、記録されている。 ・ 5) 管渠の接合状況が良好であることが確認できる。 ・ 6) 管の周辺に空隙、ゆるみがない。 					・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補(手直し)指示を行った。	
II	品							上記該当あれば・d	上記該当あれば・e
質		【推進工】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 防食被覆が入念に施工されていることが確認できる。 ・ 2) 管底に水がたまった形跡がない。 ・ 3) 薬液注入工において削孔、注入の状況及び効果が管理資料から確認できる。 ・ 4) 排水処理工において、送排泥管の流量測定記録及び逸水の管理が適正に実施されていることが確認できる。 							

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	砂防構造工事 本体ダブルウォール 前堤・側壁コンクリート構造物	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 ・1) 地山との取り合わせが適切に行われている。 ・2) 施工基面が平滑に仕上げられて、所定の強度が確保されている。(出来上がりが波打っていない) ・3) 材料の品質規定証明書が整備されている。 【砂防構造物工事に適用】 ・1) 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格(強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等)が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) ・2) コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。(同上) ・3) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、バイブレーターによる締固及び養生方法等が適切に行われている。(寒中及び暑中コンクリートとういを含む) ・4) 型枠及び支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後の取り外し時期が、コンクリート強度等で適正に管理されている。 ・5) コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 ・6) コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 ・7) コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ・8) コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 ・9) コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。(高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する) ・10) コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。(平成26年8月19日付技第1019号) ・11) 基礎地盤が確認され、適切に基礎面が仕上げられていることが確認できる。 ・12) 排水パイプ、吸い出し防止材が適切に施工されていることが確認できる。 ・13) 有害なクラックがない。 ・14) ひび割れ有無の調査を実施し報告している(土木コンクリート構造物の品質確保における品質確認調査方法、適用範囲2) ・15) 新潟県コンクリート品質確保ガイドライン(案)に基づく取組を達成した(加対象構造物以外は項目削除)					・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補(手直し)指示を行った。					
II	品						上記該当あれば・d	上記該当あれば・e
質								

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(検査員)

審査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	砂防構造工事 本体ダブルウォール 前堤・側壁コンクリート構造物	<p>【ダブルウォール工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1) 矢板、タイロッド等の品質がミルシート等で確認できる。 ・2) 鋼材に損傷及び補修痕がないことを確認できる。 ・3) 矢板の打ち込みは、ぶれ、よじれ、倒れがなく、かみ合わせが適切である。 ・4) 矢板の打止め施工管理方法等が整備され、かつ記録されている。 ・5) 腹起こし材を全延長にわたり規定の水平高さに取り付け、ボルトで十分締め付け矢板壁に密着されている。 ・6) 鋼材の保管管理が適正であることが確認できる。 ・7) 適正な盛土材を使用し、巻出し厚が所定の厚さで入念に行われている。 ・8) 構造物周辺の締め固め等の処理を適正に行っている。 ・9) ダブルウォール材の施工に、ずれ、歪み、はらみ、損傷がないことが確認できる。 ・10) 盛土材の締め固め管理を適正に実施している。 <p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0)</p> <p>④ 評価値(%)=評価数/対象評価項目数=○+△/評価対象数</p> <p>評価値=()評価数/()対象評価項目数=()%</p> <p>評価値が90%以上..... a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満..... a'</p> <p>評価値が70%以上～80%未満..... b</p> <p>評価値が60%以上～70%未満..... b'</p> <p>評価値が60%未満..... c</p>						
II	品							
質								

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	その他工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。						・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。	・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		[評価対象項目①] ・ 記述 () ・ 記述 () ・ 記述 () ・ 記述 () ・ 記述 () [評価対象項目②] ・ 記述 () ・ 記述 () ・ 記述 () ・ 記述 () ・ 記述 ()						・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補(手直し)指示を行った。
II 品 質		評定方法 ① 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △(0.5) 評価できないもの ×(0) ② 評価値(%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数 評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () % 評価値が90%以上..... a 評価値が80%以上～90%未満..... a' 評価値が70%以上～80%未満..... b 評価値が60%以上～70%未満..... b' 評価値が60%未満..... c					上記該当あれば・d	上記該当あれば・e	

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表

考査項目	工 種	a	b	c	d
		・仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい。		・他の事項に該当しない。	・仕上げが悪く、全体的に美観が悪い。
III 出来 ば え	コンクリート構造物工事 砂防構造物工事 海岸工事 トンネル工事	<ul style="list-style-type: none"> 1) コンクリート構造物の肌が良い。 2) コンクリート構造物の通りが良い。 3) 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 4) クラックがない。 5) 漏水がない。 6) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目5項目以上・・・a 該当項目4項目以上・・・b 該当項目3項目以上・・・c 該当項目2項目以下・・・d
	コンクリート二次製品構造物工事 (管水路工事も含む)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 構造物の通りがよい。 2) 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 3) クラックがない。 4) 漏水がない。 5) 全体的な美観が良い。 6) 小構造物にも細心の注意が払われている。 7) 材料の連結、かみ合わせがよい。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目6項目以上・・・a 該当項目5項目以上・・・b 該当項目4項目以上・・・c 該当項目3項目以下・・・d
	土工事 (盛土・築堤工事等)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 仕上げが良い。 2) 通りが良い。 3) 端部処理が良い。 4) 構造物へのすりつけ等が良い。 5) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目4項目以上・・・a 該当項目3項目以上・・・b 該当項目2項目以上・・・c 該当項目1項目以下・・・d
	補強盛土工	<ul style="list-style-type: none"> 1) 壁面材の割れ、カケがない。 2) 基礎上面の平坦性が良い。 3) 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 4) 壁面材の目違い、段差が少ない。 5) 構造物の通りが良い。 6) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目5項目以上・・・a 該当項目4項目以上・・・b 該当項目3項目以上・・・c 該当項目2項目以下・・・d
	切土工事	<ul style="list-style-type: none"> 1) 規定された勾配が確保されている。 2) 法面の浮き石除去等、表面が適切に施工されている。 3) 法面勾配の変化部には干渉部等を設け、適切に施工されている。 4) 施工面の木根等が確実に施工されている。 5) 施工面には滞水防止等の処理が適切に行われている。 6) 関係構造物との取り合いが適切に行われている。 7) 残土等は適切に処理されている。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目6項目以上・・・a 該当項目5項目以上・・・b 該当項目4項目以上・・・c 該当項目3項目以下・・・d
	護岸・根固・水制工事	<ul style="list-style-type: none"> 1) 通りが良い。 2) 材料のかみ合わせがよい、またはクラックがない。 3) 天端、端部の仕上げがよい。 4) 既設構造物とのすりつけがよい。 5) 隔壁、土台など細部に亘って丁寧な仕上げである。 6) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目5項目以上・・・a 該当項目4項目以上・・・b 該当項目3項目以上・・・c 該当項目2項目以下・・・d

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表

考査項目	工 種	a	b	c	d
		・仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい。		・他の事項に該当しない。	・仕上げが悪く、全体的に美観が悪い。
III 出来 ば え	鋼橋工事	<ul style="list-style-type: none"> 1) 表面に補修箇所がない。 2) 部材表面に傷、錆がない。 3) 溶接に均一性がある。 4) 塗装に均一性がある。 5) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目4項目以上 a 該当項目3項目以上 b 該当項目2項目以上 c 該当項目1項目以下 d
	砂防工事（かご工事・集水井戸工事・抑止杭工事・排水路工事・水抜きボ-リング工事等）	<ul style="list-style-type: none"> 1) 地山との取り合いが良い。 2) 天端仕上げ、端部仕上げが良い。 3) 施工管理記録から不可視部分の出来ばえの良さがうかえる。 4) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目3項目以上 a 該当項目2項目以上 b 該当項目1項目以上 c 該当項目なし d
	舗装工事（橋面舗装も含む）	<ul style="list-style-type: none"> 1) 舗装の平坦性が良い。 2) 構造物の通りが良い。 3) 端部処理が良い。 4) 構造物へのすりつけ等が良い。 5) 雨水処理がよい 6) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目5項目以上 a 該当項目4項目以上 b 該当項目3項目以上 c 該当項目2項目以下 d
	法面工事（アンカー工も含む）	<ul style="list-style-type: none"> 1) 構造物の通りが良い。 2) 植生、吹付け等の状況が均一である。 3) 端部処理がよい。 4) 全体的な美観が良い。 5) アンカーの方向が良い。 6) アンカーとプレートに隙間がない。 7) 施工管理記録から不可視部分の出来ばえの良さがうかえる。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目6項目以上 a 該当項目5項目以上 b 該当項目4項目以上 c 該当項目3項目以下 d
	基礎工事 (アンカー工も含む)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 土工関係の仕上げがよい。 2) 通りが良い。 3) 天端仕上げ、端部仕上げが良い。 4) 施工管理記録から不可視部分の出来ばえの良さがうかえる。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目3項目以上 a 該当項目2項目以上 b 該当項目1項目以上 c 該当項目なし d
	コンクリート橋工事	<ul style="list-style-type: none"> 1) コンクリート構造物の肌が良い。 2) コンクリート構造物の通りが良い。 3) 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 4) 支承部の仕上げが良い。 5) クラックがない。 6) 漏水がない。 7) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目6項目以上 a 該当項目5項目以上 b 該当項目4項目以上 c 該当項目3項目以下 d
	塗装工事 (工事塗装は除く)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 塗装の均一性が良い。 2) 細部まできめ細かな施工がされている。 3) 補修箇所がない。 4) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目3項目以上 a 該当項目2項目以上 b 該当項目1項目以上 c 該当項目なし d

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

考査項目	工 種	a	b	c	d
		・仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい。	・他の事項に該当しない。	・仕上げが悪く、全体的に美観が悪い。	
III 出来 ば え	公園・植栽工事	<ul style="list-style-type: none"> 1) 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 2) 支柱の取り付けが堅固である。 3) 樹木の活着状況が良い 4) 通りがよい。 5) 既設構造物とのすりつけが良い。 6) きめ細かな施工がなされている。 7) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目6項目以上 a 該当項目5項目以上 b 該当項目4項目以上 c 該当項目3項目以下 d
	砂防工事（捨石、雪崩柵（網）） 工事 防雪柵（網）工事 維持修繕工事（柵修繕）	<ul style="list-style-type: none"> 1) 通りがよい。 2) 端部処理が良い。 3) 部材表面に傷、錆がない。 4) 既設構造物とのすりつけが良い。 5) きめ細かな施工がなされている。 6) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目5項目以上 a 該当項目4項目以上 b 該当項目3項目以上 c 該当項目2項目以下 d
	標識工事 （視線誘導標・照明灯も含む）	<ul style="list-style-type: none"> 1) 設置位置に配慮がある。 2) 標識の向き、角度、支柱の通りがよい。 3) 標識板、支柱に変色がない。 4) 支柱基礎の埋め戻し等が入念に施工されている。 5) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目4項目以上 a 該当項目3項目以上 b 該当項目2項目以上 c 該当項目1項目以下 d
	区画線工事	<ul style="list-style-type: none"> 1) 塗料の塗布が均一である。 2) 視認性が良い。 3) 接着状態がよい。 4) 施工前の清掃が入念に実施されている。 5) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目4項目以上 a 該当項目3項目以上 b 該当項目2項目以上 c 該当項目1項目以下 d
	維持修繕工事 （道路維持工事・舗装修繕工事 等）	<ul style="list-style-type: none"> 1) 小構造物にも細心の注意が払われている。 2) きめ細かな施工がなされている。 3) 既設構造物とのすりつけが良い。 4) 全体的な美観が良い。 5) 水溜まりが生じていない。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目4項目以上 a 該当項目3項目以上 b 該当項目2項目以上 c 該当項目1項目以下 d
	港湾築造工事 （浚渫、海岸築造工事を含む）	<ul style="list-style-type: none"> 1) 通りが良い。 2) 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 3) 構造物の表面及び端部の仕上げが良い。 4) きめ細かな施工がなされている。 5) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目4項目以上 a 該当項目3項目以上 b 該当項目2項目以上 c 該当項目1項目以下 d

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

考査項目	工 種	a	b	c	d
		・仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい。		・他の事項に該当しない。	・仕上げが悪く、全体的に美観が悪い。
III 出来 ば え	道路工事 歩道工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 小構造物にも細心の注意が払われている。 ・ 2) 仕上げが良い。 ・ 3) 通りがよい。 ・ 4) 端部処理が良い。 ・ 5) 既設構造物へのすりつけ等が良い。 ・ 6) 全体的な美観が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目5項目以上 a 該当項目4項目以上 b 該当項目3項目以上 c 該当項目2項目以下 d
	消雪工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 仕上げが良い。 ・ 2) 通りが良い。 ・ 3) 端部処理が良い。 ・ 4) 既設構造物とのすりつけが良い。 ・ 5) 全体的な美観が良い。 ・ 6) 均等に水がまわる。 ・ 7) 使用者に対する安全及び環境の配慮が適切である。 ・ 8) 運転及び保守点検に対する配慮が適切である。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目7項目以上 a 該当項目6項目以上 b 該当項目5項目以上 c 該当項目4項目以下 d
	下水道工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 通りが良い。 ・ 2) 漏水がない。 ・ 3) クラックがない。 ・ 4) マンホールインバートの仕上げが良い。 ・ 5) マンホール天端と路面のすりつけが良い。 ・ 6) 埋戻し後の路面復旧の状態がよい。 ・ 7) 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 ・ 8) 端部処理が良い。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目7項目以上 a 該当項目6項目以上 b 該当項目5項目以上 c 該当項目4項目以下 d
	維持修繕工事 (河川の河床整形等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 小構造物にも細心の注意が払われている。 ・ 2) きめ細かな施工がなされている。 ・ 3) 既設構造物とのすりつけが良い。 ・ 4) 全体的な美観が良い。 ・ 5) 水溜まりが生じていない。 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目4項目以上 a 該当項目3項目以上 b 該当項目2項目以上 c 該当項目1項目以下 d
	上記以外の工事又は合併工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査項目記述 () ・ 考査項目記述 () ・ 考査項目記述 () ・ 考査項目記述 () ・ 考査項目記述 () 			<ul style="list-style-type: none"> * 該当項目4項目以上 a 該当項目3項目以上 b 該当項目2項目以上 c 該当項目1項目以下 d
※該当工種からの考査事項で考査し、最大考査項目は5項目とする。					